

心 静 かに

堀 内 康 人

良い意味の若い世代の爆発であれば結構ですが、それが非行であったり、最近では小学生の殺人傷害、自殺といったニュースが目立って来ました。喉元過ぎれば熱さ忘れるで、こうしたあきれた、いたましい事件が起きると新聞でテレビで大き過ぎし、それもいつしか忘れ去られ、時がたつとまた新しい子どもの事件が起きます。

大人は大人で政治権力の座をめぐって表面ではフェアーに、裏面では権謀術数を繰返しております。なにかが狂っている世の中だというのが生活実感として国民大衆に拡がっている。

円高ドル安の国際経済状況、不景気の深刻な深まりの中で、消費の美徳は一向に反省を見せず、人間の特質的欲望は加熱するばかりです。農民は農機具の、都会人は分譲マンション・自動車のローンにおいかけられ、最近では多重放送などという放送変革が現われ、こ



れまで通りのテレビジョンを見ていたのでは時代の進歩に取残されてしまうのではないかというような不安が生活感情の中に顔をのぞかせています。

私もはこうした現代社会生活の根源的などころで、静かに親と子どもの生活を考えて見る必要がある様に思います。

子どもにはテレビも番組をえらんで見せている、玩具も本も与えている、幼稚園へも高い月謝を払ってやっている、食品公害のない様な考慮もはらっている、これだけやっていたら自分の子どもが健全に育たない筈はない。だから我々も青春を取戻すためにテニスをやるう、ママさんバレーチームで楽しもうということになります。

賢明なお母さん方はどうも物質的選択に賢明であるが基本の所で、子どもと向き合った所で、子どもの心と通い合う様な心の選択で欠陥をもっている様です。

「お母さんお話して」と子どもに要求された時に果して何人のお母さんが子どもの心をうっとりさせ、子どもの心に浸み込んで行く様な話がお出来になるでしょうか。

適時適切な環境作り、これは言葉は簡単ですが実行となると大変難しいことです。お母さんの心が静かで温かく真底から賢明でないと出来ないことです。

このことは母親についても保育者についてもいえることで、その場しのぎのでっち上げでは、子どもの心が洗われた様に清らかに輝やくことにはないでしょう。

(東京家政大学)